

第2回文化ボランティアフォーラムを終えて

2回目のフォーラムは、文化ボランティアの分野の広さや、多様性・奥深さ、そして現実を再確認するきっかけとなりました。

“文化”という言葉が、“人の日頃の暮らし振り・生き様に関わること全てである”とするならば、文化ボランティアも 五つの分野に分けては見たものの、実に多様であることに気付かされます。

今回は三つの分科会を中心に設定しましたが、この半年間、文化ボランティアと一括りにすることは無理かな？と悩んできました。しかし、それぞれの分野で、その根底にある「ボランティア」に焦点を絞ると、案外共通する問題点が浮かび上がってきます。それは、ボランティアの「メンバー不足」と「世代交代」の問題です。限られた人材で～できる人が・できる所で・できる事を～やって行かざるを得ない現実です。さらに深刻な「運営資金の不足」です。これらを各団体の皆さんは実に粘り強く、知恵を絞りながら目の前の状況を幾らかでも良くするため一生懸命頑張っておられることに、本当に頭が下がります。そして分野によっては、組織化や自立が難しい現実も見えてきました。フォーラムの内容は、議事録に示されているとおり各事例発表や質疑応答を通じて、日頃の活動内容の濃さや苦勞のほどが十分滲み出ております。

当日のアンケートによると「満足・まあまあ満足」と回答した方がほとんどで、好評であったことは嬉しく思います。「時間が足らなかった」との指摘にたいしては、次回への課題とさせていただきます。

最後にフォーラムへ参加いただいた皆さんや、このフォーラム開催に関わっていただいた方々へ、心より感謝申し上げます。誠に有難うございました。

NPO 法人文化ボランティアとびうめの会
代表理事 田中正治